令和６年度

教職課程
自己点検評価報告書

園　田　学　園　女　子　大　学
園田学園女子大学短期大学部

令和７年３月

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部
教職課程認定学部・学科一覧

・人間健康学部（総合健康学科、食物栄養学科、人間看護学科）
・人間教育学部（児童教育学科）
・短期大学部（幼児教育学科）

大学としての全体評価

園田学園女子大学では２学部４学科、園田学園女子大学短期大学部では１学部１学科において、養護教諭一種、栄養教諭一種、高等学校教諭一種（保健体育）、中学校教諭一種（保健体育）（英語）、小学校教諭一種、幼稚園教諭一種、幼稚園教諭二種の教職課程を設置しています。人間教育学部児童教育学科及び短期大学部幼児教育学科は、教員養成課程を主とする学科であり、人間健康学部３学科は開放性の教職課程です。それぞれの学科（学位レベル）の教学マネジメント（３つのポリシー）を基礎に教職課程の位置づけを明確にし、その充実にむけた取り組みを実施しています。

また、本学の教育の柱である「経験値教育」を教職課程においても重視しています。「経験値教育」とは、教室で理論的なことを学んだ上で、地域での学びを通して、理論的なことが証明されたり、理性的に考え、納得できたりすること、教室で学んだことが、地域社会でどう活用されるかを実感することで、理論と実践が結びつき、さらに次の学びと発展していく、循環型の教育です。学校園だけではなく、広く地域の教育現場での経験を重ねる取り組みを実施しています。

教職課程の充実に向けた取り組みは、教職課程委員会や学科担当者の連携に加え、教職支援室を再構築し、さらに強固な支援体制を作ります。

今回の自己点検・評価にあたっては、課程ごとに自己点検・評価をまとめ、それらを集約して全学としての教職課程自己点検・評価報告書をまとめました。これにより、大学全体としての教職課程に係る現状や課題、特色などが明確になったと考えています。

本学の理念である「凜としてしなやかに、地域とともに、社会をきりひらく女性の育成」を踏まえ、全学的な体制で取り組み、教職課程のより一層の充実をはかり、複雑化する教育現場で活躍できる、質の高い教員の養成を目指します。

園田学園女子大学
園田学園女子大学大学短期大学部
学長　大江　篤

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色 ･･･ 1

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価 ･････････････････････････････ 4

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み ･･･ 4

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援 ･････････････････････ 8

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム ･････････････････････････ 13

Ⅲ　総合評価 ･･･ 20

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス ･････････････････ 22

Ⅴ　現況基礎データ一覧 ･･･ 23

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

（１）　大学名：園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部

（２）　学部名：人間健康学部　人間教育学部　短期大学部

（３）　所在地：兵庫県尼崎市南塚口町７丁目２９－１

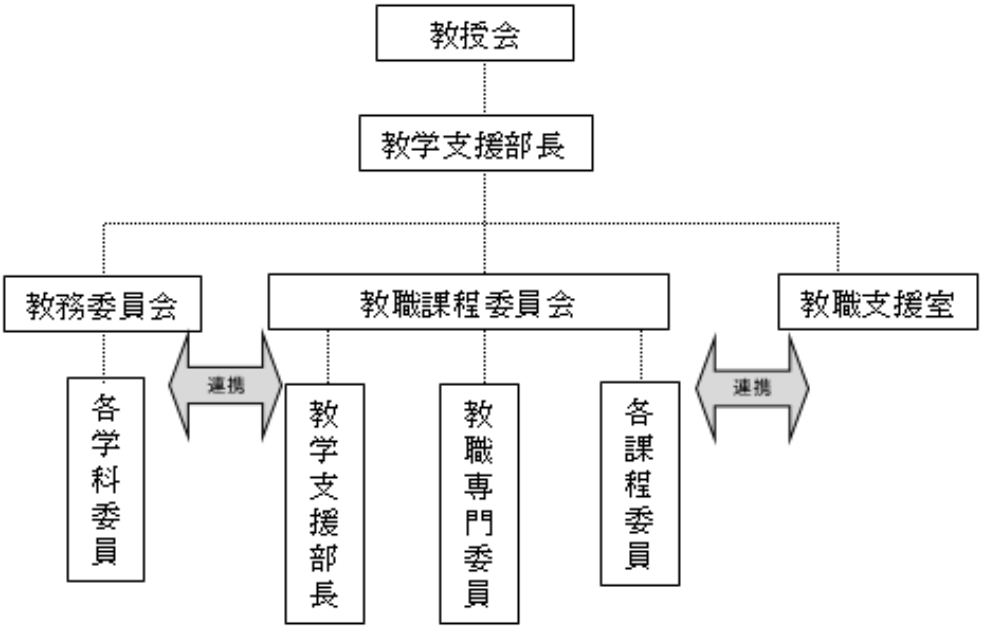
（４）　教職課程の現況

①認定を受けている教職課程

学部・学科等名	教職課程種別
人間健康学部　総合健康学科	中学校教諭一種（保健体育）
	高等学校教諭一種（保健体育）
	養護教諭一種
人間健康学部　食物栄養学科	栄養教諭一種
人間健康学部　人間看護学科	養護教諭一種
人間教育学部　児童教育学科	幼稚園教諭一種
	小学校教諭一種
	中学校教諭一種（英語）
短期大学部　幼児教育学科	幼稚園教諭二種

②教員の養成に係る組織・学生数および教員数

≪教員養成に係る組織図≫



≪学生数および教員数≫（令和６年５月１日現在）

学部・学科等		学生数	教職課程 履修者数	教員数
人間健康学部	総合健康学科	325	290	12
	人間看護学科	349	40	26
	食物栄養学科	202	59	15
人間教育学部	児童教育学科	182	170	15
短期大学部	幼児教育学科	126	116	10

③教員免許状取得状況（過去３年）

≪人間健康学部≫

学科	免許・資格	教科	令和４年	令和５年	令和６年
総合健康学科	中一種	保健体育	35	44	27
	高一種	保健体育	40	50	30
	養一種		34	23	29
人間看護学科	養一種		12	5	6
食物栄養学科	栄一種		14	6	5

≪人間教育学部≫

学科	免許・資格	教科	令和４年	令和５年	令和６年
児童教育学科	幼一種		53	39	45
	小一種		13	14	14
	中一種	英語	令和５年度完成	4	3

≪短期大学部≫

学科	免許・資格	教科	令和４年	令和５年	令和６年
幼児教育学科	幼二種		76	56	35

④就職状況

≪人間健康学部≫

学科	免許・資格	令和４年		令和５年		令和６年	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
総合健康学科	中一種（保健体育）	1	7	1	8	0	6
	高一種（保健体育）	1	7	0	6	0	2
	養一種	4	14	2	14	1	9
人間看護学科	養一種	0	0	0	0	0	0
食物栄養学科	栄一種	0	0	0	1	0	0

≪人間教育学部≫

学科	免許・資格	令和４年		令和５年		令和６年	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
児童教育学科	幼一種	11	1	12	0	8	0
	小一種	5	2	2	4	7	2
	中一種（英語）	—	—	1	1	0	0

≪短期大学部≫

学科	免許・資格	令和４年		令和５年		令和６年	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
幼児教育学科	幼二種	28	0	30	0	7	0

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学の学部・学科構成は、人間健康学部（総合健康学科、人間看護学科、食物栄養学科）、人間教育学部（児童教育学科）、経営学部（ビジネス学科）と短期大学部（生活文化学科、幼児教育学科）である。本学で取得可能な教育職員免許状は、人間健康学部では、総合健康学科で中学校・高等学校一種（保健体育）と養護教諭一種、人間看護学科で養護教諭一種、食物栄養学科で栄養教諭一種、人間教育学部児童教育学科では、幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、中学校教諭一種（英語）、また短期大学部では、幼児教育学科で幼稚園教諭二種となっている（資料１－１－１）。

本学は、建学の精神「捨我精進」（しゃがしょうじん）を基本として「経験値教育による他者と支え合う人間の育成」を教育理念としている。この理念に基づき、教職課程においても他者と自己への深い理解を基盤に、自らの知力・精神力・身体能力を鍛え、他者と支え合い成長し続けようとする姿勢を持った教員の養成を目指している（資料１－１－２）。

本学が教育の柱としている経験値教育では、講義、演習などで身につけた専門的知識を実際の経験を通して生きた力に転化すること、すなわち理論と実践（経験）の往還を通じて現実に即応した実践力を培うことをねらいとしている。この経験値教育の一環として、教職課程では教職に関する専門的知識はもとより、幼児・児童・生徒との向き合い方、子どもの発達段階に応じた指導技術、保護者対応等に関する実践的指導力の育成に力を注いでいる。なお各種の実習だけではなく、スクールサポーターやスクールボランティアをはじめ、教育の場を中心に様々な社会体験を積むことを推奨し、人間力や教師力の向上とチーム学校として求められている協働性の育成を目指している。教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教職課程の編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している（資料１－１－３）

〔優れた取組〕

人間健康学部総合健康学科では、３・４年次のゼミ担任の大半が中・高での指導経験者、あるいは教員免許保持者である。その担任が教職課程を履修している学生を把握しており、日常生活においても教育実習に行く心構えや教員になるために必要な資質を身に付けるための指導を行っている。また、健康スポーツコースでは、教育実習に参加する学生のうち、約８割が運動部に所属しており、各監督も教育実習に行くことを意識しながら日常的な指導をしている。

〔改善の方向性・課題〕

教員養成の目的・目標や目指す教員像は大学のホームページで公開しているが、趣旨や運用等について、学生間・教職員間での周知・共有を徹底する必要がある。今後、学生に関しては新入生オリエンテーションや教職課程説明会を通じて、また教職員に関しては教職課程委員会委員（課程代表教員）を通じて各学科の構成員に周知・共有を図ることが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１－１－１：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP　学部・学科
https://www.sonoda-u.ac.jp/course/index.html

・資料１－１－２：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP
建学の精神・大学の理念
https://www.sonoda-u.ac.jp/university/foundingspirit.html

・資料１－１－３：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP　教育方針
https://www.sonoda-u.ac.jp/university/policy.html

基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では教職課程委員会を中心に全学の教職課程の運営に当たっている。教職課程委員会は教学支援部長、委員長、委員（課程代表教員）、教学支援部教務課の職員で構成され、全学的な教職課程の運営と学生支援を行う上で必要とされる事項を審議する組織である。取り扱われる審議事項の詳細については教職課程委員会規程と内規に定められており、状況の変化に応じて適宜見直しを行っている（資料１－２－１、資料１－２－２）。

委員会と各学科との関係については、教職課程委員会での審議内容や全学的な方針に関しては、課程代表委員が学科会議との橋渡しの役割を担い、審議内容が学科とも共有される仕組みとなっている。

また、教育実習に関しては、学科所属教員（主にゼミ担当者）が訪問指導等を行うとともに、教学支援部教務課が必要な事務全般を担うなど、教職課程委員会を中核として、教職協同で、教員養成を全学的に展開するという体制が整えられている。

〔優れた取組〕

教職課程の質的向上を図るために授業評価アンケートを実施し、その結果を担当教員全員にフィードバックしている。2020 年には、FD 活動の一環として教職課程関連領域の論文、研究ノート、実践記録、統計資料等の掲載を内容とした「園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部教職課程年報」（資料１－２－３）を作成した。2022 年度には、教職課程に特化した形での FD 研修会が開催され、「AI カメラで学生の模擬授業を撮影し授業の振り返りに活用する」（コニカミノルタ社との共同事業）という授業を教職課程委員会委員が参観し、終了後に意見交換を行うという機会を設けた（資料１－２－４）。また、2024 年度は教職課程の授業公開をおこなった。

また、総合健康学科の保健体育免許課程では、通常の授業評価アンケートに加え、毎時間ごとに３観点（「楽しかったか」「理解できたか」「自分のためになったか」）の授業アンケートを取っており、各担当教員が分析し、次の授業指導に活かしている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程委員会の定例会議を中心に、教職課程のあり方の見直しに取り組んでいる。年度初めには教職課程委員会規程と内規及び年間スケジュールについて周知を図ったうえで、定例会議において教職課程カリキュラムの編成、教育実習や介護等体験、学生支援に関する諸問題等について随時検討し改善を行っている。しかし、これらは問題が生じた際の対応という消極的な意味での改善で、教職課程のあり方全体を見渡したより積極的な意味での改善とはなっていないのが現状説明である。今後は、教職課程全体に関わるよりマクロな視点からの取組を今後継続的に行っていく必要がある。

教職課程に特化した形での FD の取り組みについては、更なる拡充が今後の検討課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１－２－１：教職課程委員会規程
・資料１－２－２：教職課程委員会内規
・資料１－２－３：園田学園女子大学・園田学園女子短期大学部　教職課程年報　創刊号
・資料１－２－４：AI 分析結果報告

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

入学前においての本学の教職課程については、学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、オープンキャンパス時に教職を希望する生徒向けにガイダンスを行うとともに、個別相談ブースを開設し相談に応じている（2024 年度は計 9 回実施）。これらの活動を通じて本学教職課程への理解を深めた上での出願を促している。

また、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するために「教育課程編成・実施の方針」「卒業認定・学位授与の方針」等を踏まえた基準を設定し、本学の教職課程に即した規模の履修学生を受け入れている。

教職課程を履修する学生には「履修カルテ」を活用して、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。新入生オリエンテーションや 2 年次の教職課程説明会にて、教職課程の概要や履修規程、介護等体験や教育実習、採用状況等について説明を行っている（資料２－１－１）。

教育実習については、教育実習に関する内規で教育実習までに定められた科目を修得することを要件として定め、その修得状況によって教育実習実施の可否について判断している（資料２－１－２）。

本学は収容定員が大学 1650 人、短期大学部が 290 人という小規模大学で、教員免許の取得者が例年 200 人程度である。教職課程の開始や継続の基準は特に設けていないため、教員養成を主たる目的とする人間教育学部児童教育学科・短期大学部幼児教育学科以外の学部・学科では、教職を履修するかどうかについて迷っている学生も多い。しかし、活動が盛んな各運動部での講習会やフェスティバル、部活指導の派遣などの場において、実践的指導力を育成する機会の提供ができており、それにより、教職への興味や関心、また自分の適性を判断することで進路について自己決定できる学生の育成ができている。

各学科では以下の取り組みを行っている。

総合健康学科の養護免許に関しては、3 年次の「健康学演習」と 4 年次の「総合健康研究」においても教職指導を重ねて実施している。

食物栄養学科では、3 年 1 学期の「学校栄養指導論Ⅰ」で履修カルテを記入する中で、教職の志望理由をはじめとして、これまでの児童・生徒と関わった経験等について振り返り、今後の教育実習に向けての姿勢を指導するようにしている。4 年 1 学期の「栄養教育実習」、4 年 2 学期「教職実践演習」で履修カルテを記入する中で、教職課程の振り返りを行っている。

幼児教育学科では、毎年全学生に対して行う、生活・授業・実習を含めた「学生生活アンケート」の結果を活用して次年度の教職指導に活かすとともに、教育課程における学生の成果をポートフォリオ「学修カルテ」に集約し、ルーブリックをもとに学期ごとに全職員による個別面談により、学習意欲喚起及び指導・支援を行っている。

〔優れた取組〕

児童教育学科では、必修科目「経験値演習Ⅰ～Ⅳ（年次進行で開設中)」による体系的経験値教育の活動（川西阪急「園女と Enjoy!2024 秋まつり」、夏祭りイベント、幼稚園での ICT 活用と高校とのプログラミング、イングリッシュ・ワークショップ、現場体験＜施設＞、現場体験＜幼稚園＞）に参加してもらうことで、本学科の活動に理解と興味を持ってもらうように努めている（資料２－１－３)。

〔改善の方向性・課題〕

「履修カルテ」に関しては、積極的に活用している学科とあまり活用されていない学科がある。学びの軌跡の集大成として位置づけられる教職実践演習が有効かつ円滑に機能するためにも、教職課程委員会において「履修カルテ」活用の目的や意義について確認・共有し、全学的な浸透と活用を進めることが必要である。

また、学生の確保が喫緊の課題である。そのためのオープンキャンパスの工夫や高大連携をする必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料２－１－１：２０２４年度教職課程履修の手引き
園田学園女子大学教職課程２０２３年度入学生履修カルテ
・資料２－１－２：２０２４年度教職課程履修の手引き　教育実習に関する内規
・資料２－１－３：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP
児童教育学科 オープンキャンパス参加者限定「キッズイベント体験」
https://www.sonoda-u.ac.jp/apply/jikyou_kidsevent202308.html

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学の教職のキャリア支援に関しては教職支援室が中心に行っている（資料２－２－１）。教職支援室は 2011 年に開設され、2020 年に大幅な改組が行われ、現在は教職支援室長（人間健康学部長兼任）、特任講師（校長経験者）3 名、兼任教員（人間健康学部所属教職課程委員会委員長）1 名、担当事務職員（教務課と兼務）1 名で構成されている。

主な活動内容は、1 年次生の希望者対象の「教職スタートオリエンテーション」、大学の 2、3 年次生と短期大学部の希望者対象の支援室教員による個人面談、「教職サークル」への企画・支援、支援室教員による「教採チャレンジ講座」の実施などがある。

また、教職志望者のための参考資料「先生になろう」を毎年度刊行し、教員採用のための支援をおこなっている。加えて、教務課を中心に、近隣の教育委員会との共催による 3 年次生対象の教員採用試験説明会や卒業年次生対象の講師登録説明会の開催なども実施している。

学生への情報提供に関しては、大学のホームページ、manaba、ポータルサイト、各学科の掲示板、デジタルサイネージ等で随時情報提供を行っている。

教職支援室と学部・学科との連携に関しては、2022 年から教職支援室教員と学科代表教員とで意見交換を行う機会を設け、教職支援室でのキャリア支援の現状説明と学科の特性及び取得できる免許状との関係等について共通理解を図っている。

各学科においては、以下の取り組みを行っている。

（児童教育学科）

1・2 年次は、CA 担当教員が、3・4 年次はゼミ担当教員が主となって、教職課程を履修している学生への個別の指導・相談体制をとっている。＜CA（カレッジ・アドバイザー）は、学科の専任教員が 1 人 5～6 名の学生を担当し、年間 6 回程度のミーティングを開催し、学生への指導や学生からの相談を受けながら、学生の状況や様子を把握・指導する制度である。＞

また、教職実践演習及び保育・教職実践演習では、履修カルテを活用し、自己の目指す職種についての現状と実践課題を明確にし、それをもとに指導を行っている。

（総合健康学科・人間看護学科／養護）

養護コースでは、「養護概説Ⅰ」の中で、「自分がなりたい養護教諭像」等をレポート課題として課したり、一部学生の面談をおこなったりして適性を把握することに加え、「養護概説Ⅰ」「養護概説Ⅱ」「養護活動論Ⅰ」「養護活動論Ⅱ」「養護実習」「教職実践演習」内で、「教職に就くための各種情報」の提供や、現場の養護教諭の最新の現状を紹介したりして、教職への意識付け等を行っている。

学科会議で、毎回、学生についての情報共有を行うとともに、4 年次には、学科の各教員が入手した就職情報や教務課・キャリア支援課を通じて入手した就職情報を、総合健康学科教職員メーリングリストで情報共有し、ゼミ担当教員を通じて全学生に提供している。

（食物栄養学科）

管理栄養士資格に加えて栄養教諭免許を取得しようとすると履修単位数がＣＡＰ限度に近づくため、1 年 1 学期にクラス担任個人面談、学年終了時の在学生オリエンテーションや履修登録に加え、学期途中においても教職担当教員が教職履修に関する個人相談・指導を行っている。また、3 年次後半には、「栄養教育実習および教員採用試験の受験についての調査（資料）」を行い、この時点での教職への意欲を確認している。

授業の中で、卒業生の話をとり入れ教職への意欲を高めるとともに、学科のインスタグラムで、栄養教諭をめざす学生の活動記録（大学祭での食育活動など）を発信し、受験生、１年次の教職志望学生の資格取得継続に意欲を持たせるようにしている（資料２－２－２）。

2025 年度からは「学校栄養指導論Ⅱ」の授業内で、小学校や特別支援学校で活躍している卒業生（栄養教諭）を講師として招き、現在の食に関する指導の実態や特別支援学校で求められる専門性を深める機会を設ける予定である。

（幼児教育学科）

毎年学期ごとに、全教職員が「学修カルテ」をもとに大学生活や学業への意欲、就職について個別面談を行い、学科会議で共有している。また、実習支援室とも連携し、学生の情報の共有化を図っている。学生のニーズ（公立・私立）に合わせた指導を重視し、公立を志望する学生には、個別指導と共に教職支援室と連携してサポートしている。

実習支援室では、学生が作成した実習園の情報ファイルを通して情報共有でき、就職した卒業生から送られてくる募集パンフレット等も自由に閲覧できるようにしている。教育実習前に附属園田学園幼稚園での課外実習を行っている。また、毎年新卒の公立、私立就職者に来てもらい、パネルディスカッションをしている。

例年 5 月に新卒者による幼児教育に関わる仕事や人間関係等について様子を聞き合う交流会を実施していたが、コロナ以降実施できていないので、2025 年度の再開をめざして準備中である。

〔優れた取組〕

養護実践研究会スマイルズでは、2024 年度は地域の子どもを対象に保健指導に関する講座を開催した。参加学生からは子どもと触れ合う機会を自ら企画することで多くの学びを得たことが報告されている。

総合健康学科では、毎年 1 学期の授業期間終了後の土曜日に「夏期研修会・OG 養護教諭会」を開催している（2024 年度で 15 回目）。午前は講演会として、現役学生と卒業生（養護教諭）が参加し専門性を深めている。午後は卒業生（養護教諭）が進行し、現役生と卒業生（卒業生）との交流を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

現在は、教職支援室の支援と各学科の支援がそれぞれで実施されているのが現状である。取り組みを共有し、よりよいキャリア支援へつなげていけるような仕組みをつくることが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料２－２－１：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP　教職支援室について
https://www.sonoda-u.ac.jp/campuslife/kyosyoku/shienshitsu.html

・資料２－２－２：園田学園女子大学食物栄養学科インスタグラム
食育キッズフェスタ 2024
https://instagram.com/p/DBx8J9OhwsO/?utm_source=qr

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目　３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等の工夫を行っている。その際、建学の精神を具現化、学科等の目的を踏まえた教職課程科目と学科専門科目との系統性の確保、教職課程カリキュラムとコアカリキュラムとの対応、キャップ制を踏まえた履修・修得計画に配慮している。

また、ICT 機器を活用した情報活用能力を育てる教育への対応について情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に指導を行う他、アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

教職課程シラバスにおいて、各科目の学習内容や評価方法を学生に明示するとともに、教育実習参加に必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。「履修カルテ」等を用いて、学生の学習状況に応じたきめ細かな教職指導を行い「教職実践演習」の指導の際にこの蓄積を活かしている。

教職課程カリキュラムの基礎となる大学共通のカリキュラムとしては、2014 年度から１年次生を対象に、共通必修科目「大学の社会貢献」を開講している。この科目は学生が大学の所在する兵庫県尼崎市やその地域課題について目を向け、現状説明認識を深化させることを目的としており、尼崎市役所や商工会議所、地域団体（NPO 法人、自治会等）からゲストスピーカーを招き、地域を多角的に見る目を養うことにも留意している。

また 2016 年度から 2 年次生を対象に、共通必修科目「つながりプロジェクト」を開講している。この科目は学部学科横断・PBL 型の科目であり、本学が DP において卒業時に身につける力として設定している経験値（主体性、気づく力、協働する力、コミュニケーション力、考える力）の育成に力点を置いている。その内容は、異学科の学生がグループを作り（1 グループ 20 名以下）、地域での学びを通して経験を深めるとともに、課題解決に向けた企画や実践・提言を行うものである。この科目では、「塚口商店街をさらに！活性化プロジェクト」「南あわじ市における子育ての喜びが見えるまちづくり」「子ども、高齢者が共生する地域づくり」等の、地域社会が抱える多様な課題がテーマとして設定されているが、2024 年度には 23 のプロジェクトが開講された。

2021 年度の教職課程見直しの際に、免許種別、学年別の到達目標について検討を行い、2022 年度より到達目標の詳細を大学のホームページで公開している。この際に教職課程科目やそれ以外の学科科目等との系統性に配慮し、コアカリキュラムとも対応するような形で教職課程のカリキュラム編成をおこなった。

学校で求められている ICT 機器の活用や情報活用能力を育てる教育への対応では、大学共通科目「基礎情報処理（1)」「基礎情報処理（2)」を必修科目としている他、「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む)」の科目として「教育方法論」や「教育方法・技術」「学習指導の技術」（学科によって科目名は異なる）を必修科目として、その対応に当たっている。

「つながりプロジェクト」をはじめ大学が PBL 型授業の導入を推進しており、大学全体として課題発見や課題解決能力等の育成に力を注いでいる。また教職課程科目においても、教科等の指導法、教育実習事前指導、教職実践演習等を中心に模擬授業やコメントペーパーを活用したグループディスカッション、グループワーク等を積極的に導入し課題発見や課題解決能力等の育成に努めている。

教職課程以外の科目と同様に、教職課程の科目についても、教職課程のシラバスで各科目の学習内容や評価方法を学生に明示している。教育実習に関する履修要件に関しては「教育実習に関する内規」で定められている（資料３－１－１）。たとえば、人間健康学部総合健康学科の中学校・高等学校の保健体育では、免許状取得のために必要な「大学共通科目」「教育の基礎的理解等に関する科目」「大学が独自に設定する科目」に関しては、教育実習を行う前学期までにすべての必修科目の単位が修得済みであること、また「教科に関する科目」では未修得単位が 4 単位以内であることが履修要件となっている。

なお教職指導に関しては、ゼミ担当教員や教職支援室教員、また実習支援室、教務課の職員が学習状況に応じたきめ細かな指導（個別指導）を行うことを基本としている。

これらのことを基礎として、各学科では以下の取り組みを行っている。

（児童教育学科）

幼稚園教職課程は保育内容指導法（5 領域）・教育実習事前指導において、実際の保育現場を想定した模擬保育やグループワークを取り入れている。小学校・中学校教職課程においても教科等指導法では模擬授業を行っている。模擬保育・模擬授業の実践の後、学生同士でコメントペーパーを記入したり討議をしたりすることや教科担当教員からの指導を受けることで成果の定着を図っている。保育内容指導法・教科等指導法以外の科目においても、保育・教育現場で起こりうる場面（職員会議・保護者対応）に関するロールプレイなどを行っている。

幼稚園教育実習は原則 3 年生前期、小学校教育実習は 3 年生後期又は 4 年生前期、中学校教育実習は 4 年生前期に実施されるが、実習に関する内規により、実習までに履修を終えておくべき科目が定められている。全ての免許種の実習において「日本国憲法」「体育論」「スポーツ」「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「基礎情報処理（1）（2）」を修得しておかなければならない。免許種別の修得しておかなければならない科目についても、実習に関する内規に定めている。

（総合健康学科・人間看護学科／養護）

養護コースでは希望者が保健室ボランティア（定期健康診断のボランティア）に参加したり、少年警察大学生ボランティア（少年の立ち直り支援・不登校支援）に参加したりできるようにしている。

「養護概説Ⅰ」「養護概説Ⅱ」「養護活動論Ⅰ」「養護活動論Ⅱ」「養護実習」「教職実践演習」ではアクティブラーニングやグループワークを取り入れている。特に「養護活動論Ⅱ」「教職実践演習」ではワールドカフェ、ランキング等の技法を取り入れ「子どもたちの現代的な健康課題」や「養護教諭の職務における課題」について取り組んでいる。

養護コースでは、学生の学習状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。特に、科目「養護実習」との系統性を重視している。

（食物栄養学科）

3 年次生に対して教育実習報告会を 2 回実施している。教育実習の中で、教育現場の ICT 教育の現状を把握し、この 1 年でより進歩していることがわかった。

模擬授業や課題発表を中心にした授業内容にしている。また、各発表に際しては、全員が必ず質問や感想を述べるように促している。

教職実践演習では、教育実習前の模擬授業の練習、実習中および実習後の内容の変化を、学生個々に報告させ、授業の振り返りを行っている。教員・学生同士が共有することにより、地域や学校間の違いがわかり、新たな気づきの機会となった。この経験を経て履修カルテを記入することは、これまでの記入してきた自己評価を確認しながら、教職課程の集大成としての価値があると感じる。2024 年は、5 つのテーマ（自己課題、食育、SDGs、学校給食、食物アレルギー）を予め設定し、教育実習校や地域の現状を報告し、討論する機会を設けた。これまでの教育実習報告会では見えてこなかった食育の現状や課題について内容を深めることができ、学生と教員で共有することができた。

（幼児教育学科）

社会に溢れる様々な情報を適切に活用できる基礎能力を身につけるための基礎情報処理Ⅰを 1 年次に履修し、Ⅱは選択科目として編成している。授業では、書画カメラを使った発表やパワーポイントを使ってのプレゼンテーション等を積極的に取り入れている。

授業では、一人ひとりが自分の考えを持ち発信することを第一義として、主体的な学びであるアクティブラーニングはもちろんグループディスカッションやペープサート製作等のものづくりを通したグループワークを活用して課題解決に向けて協働的な学びから深い学びへと臨むようにしている。

教育実習の手引書を作成し、評価項目、評価方法等を学生に周知している。また、学びの管理表を作成し、自己管理や意欲向上に図る材料としている。

教育実習の履修要件として、小グループの幼稚園を想定し園の教育方針、各年齢担任を決める。その中で年齢ごとに運動、音楽、製作の保育指導案の作成、模擬保育、事後反省会、教員による事後指導等を行う。

〔優れた取組〕

児童教育学科では、体系的経験値教育の実践として「経験値演習Ⅰ～Ⅳ」を開設し、地域の施設や幼稚園、小・中・高校と連携し、学生が企画した活動を実践できるようにしている。活動の過程では異学年でグループを構成することで、下級生は上級生をモデルにしたり上級生はこれまでの経験からいかに下級生に分かりやすく伝えられるか工夫したりする機会を設け、学生同士で今後教育現場の必要な力をつけられるようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

体系的な経験値教育は、学校の背景にある地域社会に目を向け、よりマクロな視点から学校が抱える諸課題を理解しようとする視点や、コミュニケーションを図りながら課題発見や課題解決に向けて主体的、協働的に働くといった、今日求められているチーム学校

の基本となる諸能力が身につくことが期待されるものである。その教職課程における実施方法・内容等の充実に向けた取組が今後の課題である。

また、「履修カルテ」の使用に関しても、現状では学科によりその活用度にばらつきがあり、学びの軌跡の集大成である教職実践演習が有効かつ円滑に機能するためにも、「履修カルテ」の活用方法の深化・充実を進めることが求められる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料３－１－１：２０２４年度教職課程履修の手引き　教育実習に関する内規

基準項目　３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会として、介護等体験、ボランティア、インターンシップといった様々な体験活動への参加が有効である。教学支援部及び教職支援室でスクールサポーター、スクールボランティア、自然学校指導補助員等への参加を促すために情報提供を行っている。その際、学生にボランティア等の参加決定届を提出させることで参加者を把握するとともに、事後には教職支援室教員との面談等の振り返りの機会の確保に努めている。また、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について、学生が理解する機会を設けている。

近隣の教育委員会等と組織的な連携協力体制を構築している。一例として、本学の「子どもの育ち支援会議」（総合健康学科、児童教育学科、幼児教育学科の教員で構成）が尼崎市教育委員会と協働で取り組んでいる「ハートフルフレンド養成講座」があげられる（資料３－２－１）。この講座は不登校児童・生徒の現状や理解を基本に、家庭訪問などのボランティア活動への参加者養成を目的としたものである。本学教員と尼崎市教育委員会は定期的に会合を開き、情報交換とともにボランティア学生養成のためのプログラム開発と実施を行っているが、2022 年には養成講座の基礎資料となる「ハートフルフレンドハンドブック」を上梓した（資料３－２－２）。

この他にも、教職支援室が中心となって近隣の教育委員会が主催する教員養成講座や、学生が教育実践の最新の事情について学ぶ機会として、現職教員が主催する研究会や研修会への参加を促すといった活動も行っている。

各学科では次のような取組を行っている。

（児童教育学科）

幼稚園教諭一種免許状取得希望者に対して４年生後期科目「保育・教職実践演習」（免許必修）において、0～3 歳未満児とその保護者対象に学内で開室している「そのだ子育てステーションぴよぴよ」で実習を行い（資料３－２－３）、実習記録を作成し、振り返りの機会も設けている。また、教育現場での実際の勤務の様子などを見せてもらうために、幼稚園や小学校、中学校と連携し、学生が教育現場を見学できる機会も設けている。

体系的経験値教育（再掲）では、学生が企画したものを地域の子どもたちを対象におこなったり、幼稚園、小学校、中学校で実践したりしている。事前に実践させていただく場について調べて企画している。また、実践後に振り返りを行うことで地域の実情に合わせた課題について考える機会を作っている。

（総合健康学科／保健体育）

３年生２学期に「学校体育実技演習」を開設し、約４０名の学生に対し、学科専任教員４名で集団的スポーツ、個人的スポーツに分け、学校現場に出たときにより円滑に授業や行事がおこなえるような演習を行っている。

（総合健康学科・人間看護学科／養護）

学内に模擬保健室（施設名「養護実習室」）を設置し専門科目の授業で活用している。また、希望者が保健室ボランティア（定期健康診断のボランティア）や少年警察大学生ボランティア（少年の立ち直り支援・不登校支援）に参加できるようにしている。

地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について「養護概説Ⅰ」「養護概説Ⅱ」「養護活動論Ⅰ」「養護活動論Ⅱ」「養護実習」「教職実践演習」で伝えている。
（食物栄養学科）
教育実習の準備として、子どもを対象にしたボランティア活動（例、放課後の学習支援、スポーツ、子ども食堂など）を積極的に行う機会をもつように勧めている。
2024 年は地域の子どもたちへの食育ボランティア活動の一環として、尼崎市主催のイベント「みんなのサマーセミナー（サマセミ）」及び「食育・適塩化フェア 2024」に参加して、3 年次生が中心になり 2 年次生と一緒に食絵本の読み聞かせを実践している（資料３－２－４）。また、大学祭での食育活動「食育キッズフェスタ 2024」では、SDGs HYOGO 青年チャレンジ事業として、外部評価を受けながらグレードアップを遂げている（資料３－２－５）。
（幼児教育学科）
身につけた知識・技能を活用・応用できるように幼稚園へのボランティア活動、アルバイト等を実習支援室や掲示板に掲示し積極的に勧めている。そして、その活動が就職に結びついている。附属幼稚園での課外実習を行っている。また、南あわじ市と連携し、4 つのゼミの学生が南あわじ市の保育所や市の学習支援センターで、保育理論に基づいた遊びを通した保育の企画・実施をしている。さらに、学内に「そのだ子育てステーションぴよぴよ」が創設され、地域の子育て中の親子との交流を授業に組み入れている（資料３－２－３）。

〔優れた取組〕
総合健康学科（保健体育免許）では、４年生２学期に「スポーツ指導演習」を開設しており、保育園園児を学内に招き、何をどのように提供すれば園児たちが楽しみながら体を思いきり動かすことができるか、自分たちで指導する中で学んでいる。

〔改善の方向性・課題〕
本学は 2013 年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に採択されたことを機に、経験値教育における地域志向性を強化し、大学の所在地である尼崎市を中心に活動を深化させてきた。また教職課程においても地域とのつながりを重視し、連携による実践的指導力の育成に関して上記のような成果がみられている。しかし、こうした取組は特定の学科や熱意ある教員による独自の実践という色合が残っており、大学・学科をあげての取り組みにまでは至っていない部分もある。
今後地域と大学との連携の好循環を維持・発展させていくためにも、この問題を本学の教職課程にどう位置づけ、どのように展開していくかについて論議を深めることで、望ましい在り方（大学全体の取組との関連を含め）について見直しを図ることが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料３－２－１：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP　不登校生徒支援ハートフレンド研修会
https://www.sonoda-u.ac.jp/news/sa6m3200000011a9.html

・資料３－２－２：ハートフルフレンドハンドブック

・資料３－２－３：園田学園女子大学・園田学園女子大学部 HP
そのだ子育てステーションぴよぴよ
https://www.sonoda-u.ac.jp/course/tanyou/piyopiyo.html

・資料３－２－４：園田学園女子大学食物栄養学科インスタグラム
みんなのサマーセミナー（サマセミ）、食育・適塩化フェア 2024
https://www.instagram.com/p/C_RjWCJSGnv/?img_index=1
https://instagram.com/p/DCQDcSJyhvI/?utm_source=qr

・資料３－２－５：園田学園女子大学インスタグラム
食育キッズフェスタ 2024（食育チーム SONODA）
https://www.instagram.com/p/C_Z1pTihp9X/

Ⅲ　総合評価

本学の教職課程では、理論と実践を循環させる「経験値教育」に基づき、実践的指導力の育成を目指している。そのため、授業と共に、教育の場を中心に様々な社会体験を積むことを推奨している。
大学カリキュラムの全体としては、体系的な経験値教育の実践を目指し、共通科目に「大学の社会貢献」（１年生)、「つながりプロジェクト」（２年生）を必修科目として開設するとともに、これらの科目を基礎に、各学科で４年間を通じた経験値教育を実践し、改善を加えているところである。また、各学科については、以下のカリキュラムや取組等を通して、「気づく力」「考える力」「コミュニケーション力」「協働する力」「主体性」の育成を図っている。
本年度について、児童教育学科では「経験値演習」の授業を中核に、テーマを設定してイベントやワークショップを企画し、実践的指導力を高める取組を行った。次年度への改善として、「ぴよぴよ」「ここ活」等の地域貢献とともに、幼稚園・小学校のインターンシップを実施し、教職のための資質・能力を高めることに重点化していく方向である。食マネジメント学科では、「大学の社会貢献」「つながりプロジェクト」を土台に、「給食経営管理臨地実習」等での現場経験を経て、「食物栄養学研究」で個々の課題に取り組ませている。また、キッチンカーの活用により、地域等で現場経験を積ませる企画を行った。けやき祭（学園祭）では、「食育キッズフェスタ」を継続して実施している。次年度は、予算や施設を有効に活用し、「経験値教育」の充実と高校生等への学科の広報をいっそう効果的に行うことが課題となっている。総合健康学科健康スポーツコースでは、「学校体育指導演習」で実務経験教員による体育授業の効果的な指導方法の演習を行い、また、「スポーツ指導演習」で、保育園児に幼児が楽しみながら体を動かすための体験演習を行った。養護コースでは、各講義や実習で教育・保育・施設現場での実践力を高める科目を行っている。また、「養護実践研究会スマイルズ」によるみんなのサマーセミナー等の活動、「少年警察大学ボランティアの活動」等、自主的な地域貢献を行った。次年度も、一つ一つの講義の充実と活動により、教職としての経験値を上げていく予定である。人間看護学科では、養護教諭に関わる講義や実習等での実践的な教育の充実と共に、「まちの保健室」への学生参加を通した経験を積ませている。課題としては、看護師の国家資格と養護教諭免許取得の両立のための環境づくりが必要であり、次年度も、教務課等との連携がいっそう求められている。幼児教育学科では、附属幼稚園での課外実習や、「保育・教職実践演習」での「ぴよぴよ」等の実習に加え、幼稚園へのボランティア等、経験値を上げる授業や取組を行っている。一方、例年行っていた新卒者による幼児教育に関わる交流会がコロナ禍等で実施できていなかった。次年度は再開させたい。
これらのカリキュラムや取組は、実践的指導力を持った教員を養成するためのものであり、今年度の成果と課題を踏まえ、次年度に向けて、内容の充実と改善を図っていく必要がある。

その際、大学のカリキュラムとしての体系的な「経験値教育」と、教員養成における講義科目、演習科目、教育実習、教職実践演習の各科目及び様々な取組の「経験値教育」に基づく実践が、相乗効果を発揮できるようにすることが求められる。また、意図するところを講座及び広報等により、適切に学生に周知しなければならない。さらに、各学科の優れた取組の内容や成果等を全学で共有し、各学科の特性を生かしつつ、全学的な取組としてより充実した教育課程の運営を図ることも必要であると考える。

そのために、教職課程委員会の運営の在り方を検討すると共に、教務委員会等との連携を密にして、有機的な改善を行っていきたい。

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

2024 年 11 月 14 日　　自己点検・評価について情報共有および打ち合わせ
（教職課程委員長・教務課）

2024 年 11 月 21 日～12 月 20 日　　各担当者による原稿作成
（2024 年度第 3 回教職課程委員会）

2025 年 1 月 6 日～2 月 7 日　　原稿の取り纏め
（教務課）

2025 年 2 月 10 日～2 月 28 日　　原稿の内容確認および修正
（教職課程委員長・教務課）

2025 年 3 月 6 日　　原稿の内容確認
（2024 年度第 4 回教職課程委員会）

Ⅴ　現況基礎データ一覧

令和６年５月１日現在

法人名　学校法人園田学園	
大学名　園田学園女子大学	
学部・学科 人間健康学部　（総合健康学科、食物栄養学科、人間看護学科） 人間教育学部　（児童教育学科）	
1　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等	
①　昨年度卒業者数（令和５年度卒業生数）	299 名
②　①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む）	289 名
③　①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も１と数える）	185 名
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	55 名
④のうち、正規採用者数	18 名
④のうち、臨時的任用者数	37 名

2　教員組織（令和５年５月１日時点）

	教授	准教授	講師	助教	その他（ 助手 ）
教員数	26 名	17 名	5 名	9 名	9 名

相談員・支援員など専門職員数　７名（実習支援室職員及び教職支援室教員）

令和６年５月１日現在

法人名　学校法人園田学園	
大学名　園田学園女子大学短期大学部	
学科　　幼児教育学科	
１　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等	
①　昨年度卒業者数（令和５年度卒業生数）	65 名
②　①うち、就職者数（企業、公務員等を含む）	62 名
③　①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も１と数える）	56 名
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	27 名
④のうち、正規採用者数	27 名
④のうち、臨時的任用者数	０名
２　教員組織（令和５年５月１日時点）	

	教授	准教授	講師	助教	その他（　助手　）
教員数	３名	２名	０名	４名	０名

相談員・支援員など専門職員数　４名（実習支援室職員及び教職支援室教員）